子育てひろば

大阪市更生療育センター

保育園には、発達に課題のある子どもたちもいます。そして、できるだけその子に合った適切な支援をタイムリーにしていくために、専門の療育支援とつなげていきたいとのぞんでいます。発達相談を通じて連携する専門機関とはどのような活動をしているのか、また、近年激増している療育支援を行う施設との違いがあるのか等々を知りたく、今回は大阪市更生療育センターに取材に出かけました。

大阪市内には、療育を担っている機関として未就学児を対象にした児童発達支援センターや児童発達支援事業所と、学童期の児童を対象にした放課後デイサービスがあります。いずれの施設でも、身近な地域で子どもに応じた発達支援を受けられるところはほぼ共通していますが、今回訪問した更生療育センターは、大阪市が設置し、社会福祉法人大阪市障がい更生文化協会(現大阪市障がい者福祉スポーツ協会)が運営を委託され、昭和五九年六月に開設されました。

【療育機関】　※詳しくは、各専門療育機関の案内チラシをご覧ください

	利用期間	学齢児の利用可能期間	機関名	所在地
A	4月～3月	★	児童デイサービスセンターan	淀川区
B			大阪市更生療育センター	平野区
C		★	こども発達支援センターaz	住吉区
D	9月～翌年度8月	★	bonキッズ谷町	天王寺区
E		★	bonキッズ北堀江	西　区
F			大阪発達総合療育センターあさしお園	港　区

多くの人を受け入れてきた丸いアーチ型のエントランスからエレベーターで療育部門である二階に上がると、そこには様々な障がいがある子どもたちが移動しやすいよう幅広く、見通しの良い廊下がひろがり、その両脇には子どもたちが分かりやすいようにシンボルカード等が貼られた部屋が並んでいました。

杉浦副センター長より、センターのこれまでの歩み、支援方針や具体的な療育等についてお話を伺いました。

訪問した更生療育センターは平野区にあります。療育部門では、療育の必要性があると認められた大阪市内在住の未就学児を対象に、福祉型児童発達支援センター(保育所訪問・障がい児相談支援)として療育を提供されています。

視覚で一日の流れを理解します

足うら刺激で落ち着いて座れます

また、大阪市から「発達障がい児専門療育機関」として業務を受託している施設でもあります。

センターに通所するきっかけや経過もさまざまです。例えば乳幼児検診等で療育の必要性を助言されたり、保育所等に在籍しながら障がいの特性に合った療育が必要と助言される場合もあります。

療育部門では「子どもの成長を親子で確かめ喜び合える」支援目標のもと、様々な専門性を持つ職員の方たちが子どもの育ちだけでなく、保護者の悩みに寄り添い、子どもや家族が地域で生き生きと生活できるよう取り組まれています。ひとり一人が大切にされている工夫された環境があると感じました。

開設からの話を詳しくお聞きしました

療育のプログラムとしては、保護者同伴の「親子通園」、子どもがバスに乗って登園してくる「単独通園」があります。

その後、それぞれの専門スタッフの方から、担当する療育の内容についてリレー方式で現場を見学しながら丁寧な説明をいただきました。

手作りの知育玩具

まず「親子通園」では、見て分かり易く！をモットーにシンボルカードに導かれるように入った室内に、間隔をあけた個別の机が並べられていました。

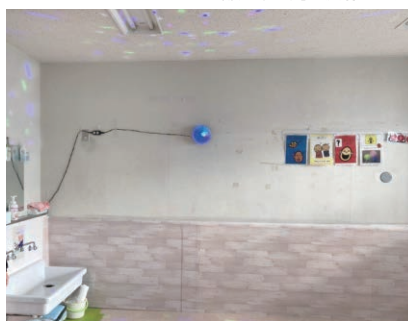
机の上には様々な工夫がひかる手作り玩具があり、そこで遊ぶ子どもたちの笑顔が目に浮かぶようでした。

順番通りに完成させます

それぞれの場所のカードを持って移動します

言語聴覚の部屋

壁のミラーボールをつけると部屋中に光が反射します



マジックミラーで付き添いの保護者が子どもの様子を見ることができます

パーテーションを使って１人の場所を確保します

「単独通園」では、現在十五名の子どもたちがそれぞれの支援目標に応じて2つの色グループに分かれて、集団支援や個別支援を受けています。一日のスケジュールが示されたカードと、見通しを持って主体的に遊びに参加する工夫は、実生活に活かすための大切な経験となっていくと感じました。

朝の準備も「見える化」で分かりやすく

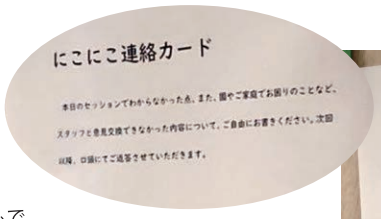
中に入ってゆられる事で
落ち着きます

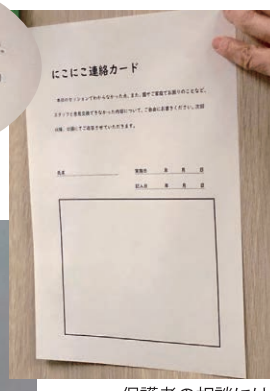
同じ絵に指す
お弁当ピックで作った
手作り玩具

ひじを固定し
食べやすくする棚板

発達障がい児専門療育機関である「にこにこ倶楽部」では、自閉症スペクトラム障がいの子どもを対象に、その特性を踏まえた空間（支援の部屋）があります。

様々に工夫された課題別のコーナーが設けられ、就学を見据えて、自立的に活動に参加する力を発揮できるよう支援が行われています。保護者向けには「にこにこ連絡カード」を通じて、その場で言えない質問や悩みをサポートされていることに、手厚い保護者支援を学びました。





保護者の相談には
連絡カードで対応

部屋のすみにアクアリウムで
落ち着く場所を作っています

また、地域支援として、訪問支援事業を通じ、保育現場にも療育センターのそれぞれの分野のプロが助言や提案をし、関係機関との連絡調整をしています。

保育園としては、これからも療育センターとの連携を大いに活用させていただきながら子どもたちの育ちを支えていきたいと思う訪問になりました。

（広報部）